



# フェアトレード・フェスタ

## 「身近にできる国際協力」の開催

(財)大阪国際交流センター情報企画課

三月一九日、二〇日の二日間、開発途上国の生産者が伝統技術などを用いて生産した品物を輸入し、生産者の立場に立った価格で購入することによって開発途上国の人々の自立を支援しようというフェアトレードを広く市民に紹介する目的で、(財)自治体国際化協会の先導的施策支援事業として「フェアトレード・フェスタ」を身近にできる国際協力(以下、フェスタ)を開催し、のべ約二六〇〇名が参加しました。

フェスタでは、シンポジウムに加え、フェアトレードの品物の展示・即売会場「フェアトレード商店街」やカフェ、フェアッションショーも開催しました。

### 事前準備

フェスタの開催に向け、「フェアトレード研究会」を組織し、委員の方々にさまざまな視点で議論を重ねていただきました。委員の方々には、パネルディスカッションや各分科会のコーディネーターにもなっていただき、その準備段階では、それぞれが担当するプロ

グラムでのパネリストの選定や出演交渉などに携わっていただきました。

### フェアトレードの第一人者が語る

基調講演では、フェアトレードの商品ブランド「PEOPLE TREE」を展開しているフェアトレードカンパニー(株)代表のサフィア・ミニーさんに「フェアトレードと私—PEOPLE TREEの歩み—」と題し、ご自身が設立されたNGO「グローバル・ヴィレッジ」の誕生からフェアトレード部門を独立させたフェアトレードカンパニー設立に至る経緯をはじめ、ロンドンのデパートへの進出展開などについて語っていただきました。

また、「市民バンク」代表の片岡勝さんには、『都市と田舎の元氣フェアトレード』と題し、フェアトレード団体「第三世界ショップ」を設立した自身の



↑基調講演を行うサフィア・ミニーさん

経験をはじめ、若い学生や留学生の支援などの新しい取組みから「起業の勧め」という観点のお話も伺いました。

### 国内外のさまざまな取組みを紹介

パネルディスカッションでは、基調講演の講師でもあるサフィア・ミニーさん、アメリカのアウトドア製品メーカー「パタゴニア」日本支社の篠健司さん、国際交流で大阪の商店街の活性化を図る「一商店街一運動」のコーディネーターで作詞家のもず唱平さん、カンボジアで伝統織物の復興を実践されているクメール伝統織物研究所所長の森本喜久男さんを迎え、それぞれの活動を紹介していただきました。

コーディネーターの岩崎裕保さん(帝塚山学院大学教授)からはイギリス・ヨークの先進事例が紹介され、フェアトレードに関する議論にとどまらず、街づくり・村づくりの観点から見たフェアトレードについても議論がなされました。

その後の分科会では、次のようなテーマ、

内容で議論が行われました。

**分科会1** ショップオーナー・生産者が語る「フェアトレード」 参加者：二二〇名

《コーデイナー》原いね子(「N.E.」いね〜フェアトレード&エゴロジ) フェアトレードのお菓子と紅茶を味わいながら、自由な雰囲気の中、サフィア・ミネーさん、フェアトレードカンパニー広報ディレクターの胤森なお子さん、生産者代表としてインドのサンシャ・ハンディクラフツのスワガタ・ゴシユさんをパネリストにお迎えし、フェアトレードにかかわられたエピソードなどを交えながら、フェアトレードが日本で受け入れられるためには何ができるかについて議論いただきました。

**分科会2** 街角のコーヒーストリー、バナナとコーヒーからみえてくる新しい世界 参加者：二二〇名

《コーデイナー》小吹岳志(フェアトレード・サマサマ事務局長)

まだ「フェアトレード」という言葉がない時代から、フィリピンとの民衆交易を始めた、日本ネグロス・キャンペーン委員会共同代表の前島宗甫さん、スローライフを提唱する「ナマケモノ倶楽部」の拠点、カフェスロー代表の吉岡淳さん、浪速商人の土居年樹さんとを交え、フェアトレードのバナナとコーヒを味わいながら、国際協力だけでなく、環境にも配慮したフェアトレード活動が日本の社会で受け入れられ、根付いていくための工夫についてのお話を伺いました。

**分科会3** 地域の文化を紡ぐ、様々な担い手(伝統織物・手仕事) 参加者：二〇〇名

《コーデイナー》長谷川悟郎(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

地域に自生するパイナップルの繊維で織られる伝統布ピーニヤの復興に取り組みフィリピンのインディア・レガスピさん、母国ラオスの子どもや女性たちとの協働活動を続ける東京在住のチャンタソン・インタヴオンさん、そしてカンボジアの地に入り、内戦の影響で途絶えていた当地の染織を復活させた染織職人である森本喜久男さんから、伝統的な技術や知識を活かした文化の保存、継承に力を注ぎ、現地で活動する様子とともにさまざまな問題点についてもお話を伺いました。

**分科会4** ワークショップ「フェアトレードをひも解く」 参加者：二〇〇名

《コーデイナー》岩崎裕保(帝塚山学院大学文学部国際文化学科教授)

開発教育協会の佐藤友紀さんをファシリテーターにお迎えし、絵本「もし地球が100人の村だったら」を教材にしたワークショップと、フェアトレード商品(タイ・リス族のパッチワークの小物)を分解する作業、実際に取引をしているフェアトレード、そしてサマサマの小吹岳志さんによるリス族の説明を通して、「フェアトレード」という視点から見た現在の世界状況について考えました。また、関連イベントとして、輸入手続入門セミナー「儲かる輸入ビジネスのやり方」フェアトレード実現のために(参加者：一九日

一〇〇名、二〇日九〇名)を実施しました。

**大盛況のフェアトレード商店街  
来場者約一六〇〇名**

フェアトレードの食品や雑貨、衣類などを販売する三三団体が出展、それぞれの商品や生産者について熱心に質問する参加者の姿も多く見られました。また、「国際協力という言葉が聞くと構えてしまいがちだが、自分が気に入った食べ物や雑貨などを買うことが、結果として途上国に住んでいる人々の生活を支えることにつながるのだと、国際協力を身近に感じた」という声も聞かれました。



↑多くの人でにぎわう「フェアトレード商店街」

## 成果と今後の展開

今回初めて開催したフェスタですが、若い参加者が多く、熱心に議論に耳を傾けている姿が多く見られました。また、今まで個別に活動していた関係団体が一堂に会したことで参加者のみなさんにフェアトレードを実感していただき、日本で身近な国際協力の一つとしてのフェアトレードの広がりを期待する良い機会となりました。これを機に今後、国際交流・協力事業の中で、市民の方々にフェアトレードへの理解を深めていただくような事業展開をしていく予定です。